

自由われらの園 国府高校100周年

国府高校(豊川市)の卒業生インタビューの最後は、俳優として映画やドラマ、舞台と幅広く活躍する渡辺いっけいさん(58)。役者を目指すきっかけや母校に対する思いを聞きました。

(聞き手・川合道子)

—どんな高校時代でしたか
絵を描くのが好きで、将来は漫画家になろうと思っ
ていました。でも高一の最
初の美術の授業で、クラス
に僕より絵がうまい人が二
人もいることが分かり、諦
めちゃうんです。ただ「人
を楽しませたい」という思
いはくすぶっていました。

当時は、読者が投稿するギ
ャグやパロディーなどで成
り立っている雑誌「ピック
リハウス」が人気で、雑誌
の投稿の常連になろうと勉
強そっちのけでギャグを考
える日々でした。

僕があまりに勉強しなかつたせいかな、先生に半分冗談で「進級させてやるから生徒会長をやらなさいか」と言われました。立候補したのは僕一人。あるクラスか

卒業生インタビュー編④

俳優 渡辺 いっけいさん(58)



わたなべ・いっけい 1962年生まれ、豊川市豊津町出身。NHK連続テレビ小説「ひらり」でヒロインの相手役で医師の安藤竜太役で人気を博し、以降も「救命病棟24時」(フジテレビ)など数多くに出演。2021年2月に始まるNHK大河ドラマ「青天を衝(つ)け」に出演予定。19年から豊川市が委嘱する「とよかわ広報大使」を務める。

文化祭契機 役者目指す

いざじめることは好き。落第点ばかり取っていたから、親しみも込め「よっ、赤点会長」と呼ばれました。

—役者を目指そうと思っ

たきっかけは

高2の文化祭です。カラオケ大会で仲間と一緒にキヤンディーズをやるのと体育館の脇で出番を待っているとき、普段は学びの場である学校がエンターテインメントの場になり、生徒が半端なく喜んでる姿を目にしました。「役者になる

おかげで役者になれた。

と、こいつ(う)ことを毎日やるんだろ(う)な」と思ったら鳥肌が立った。初めてプロを目標そうと思い、翌日には演劇を学べる大学を探していました。

—母校での経験が今に生

わじわと気づきました。—母校へのメッセージをお願いします

初主演した映画「いつくしみふかき」が豊川市でも今年上映されることになりました。高校の同級生に「見に来てほしい」と声を掛けたら、市内のいろんなところにポスターを張ってくれたり、チラシを配ったりしてくれました。ありがたかったです。あいつ(う)で映画館に行く、久しぶりに会えた友達もいて、とても良い時間を過ごしました。

—終わり